

武力衝突の平和的解決と核兵器廃絶を求める平和首長会議共同アピール

ロシアによるウクライナ侵攻開始から二年を迎えようとしています。未だに収束の目途が立たない中で、イスラエル・パレスチナ情勢によって世界はますます混迷を極め、戦禍により多くの人々の命や日常が奪われています。平和首長会議を代表して、これまで犠牲となった全ての人に謹んで哀悼の意を表しますとともに、一日も早い停戦を求めます。

米露英仏中の核兵器保有国はともに「核戦争には勝者はいない」との共同声明を発表していたにもかかわらず、こうした事態が発生する中で、核兵器使用が具体的かつ現実的な選択肢の一つとして示唆され、それに対抗するかのよう核兵器の増強や近代化が進められ、核軍拡競争になりかねない様相を呈しています。

これまで長年にわたり、核兵器は「断じて使ってはいけない兵器」であると訴え続けてきた被爆地広島・長崎は、現下の国際情勢の下で、核兵器が「使えるかもしれない兵器」へとその評価が激変していくことを深く憂うとともに、第三の戦争被爆地を生み出しかねない事態に危機感を強めています。

今こそ市民社会が一丸となって、罪のない多くの一般市民が犠牲になる都市への武力行使の停止と核兵器の廃絶、そして対話による問題解決を目指す、平和意識の醸成を図っていかねばなりません。

世界中の平和を愛する人々よ、平和首長会議とともに、私たち一人ひとりが日常生活の中で平和について考え、行動し、戦争や紛争、差別や偏見などあらゆる暴力を正当化することがない状況、すなわち「平和文化」を市民社会に根付かせるための大きな潮流をつくっていきましょう。

全ての為政者が、平和を願う市民社会の声をしっかりと受け止め、威嚇や武力行使ではなく、対話による平和的解決に向けた外交努力をさらに尽くし、核兵器のない平和な世界の実現に向けた具体的な行動へ歩みを進めることを、私たちはここに訴えます。

2024年2月22日

平和首長会議 会長 広島市長 松井 一實
副会長 長崎市長 鈴木 史朗